

公立大学法人高崎経済大学
平成24年度業務実績に関する評価結果

平成25年10月

高崎市公立大学法人評価委員会

目 次

1	評価方法	1
2	全体評価	2
3	項目別評価	3
	I 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	3
	II 学生支援に関する目標を達成するためにとるべき措置	3
	III 地域・社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置	4
	IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	4
	V 財務運営の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置	4
	VI 自己点検及び自己評価並びに情報の提供に関する目標を達成するためにとる べき措置	4
	VII その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置	5

1 評価方法

高崎市公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法第28条の規定に基づき、公立大学法人高崎経済大学の平成24年度の業務実績を評価した。

(1) 評価にあたっての基本的な考え方

- ① 評価を通じて、大学の教育研究及び法人の運営の状況等を分かりやすく示し、市民への説明責任を果たしていくものとする。
- ② 法人の教育研究、学生支援や法人運営についての工夫や特色ある取り組みを積極的に評価するものとする。
- ③ 次期中期目標・中期計画、法人の組織及び運営の見直しの検討に資するものとする。

(2) 評価方法

評価は、「全体評価」及び「項目別評価」により行った。

- ① 「全体評価」は、平成24年度の業務実績を総括的に評価するとともに、中期目標・中期計画に対する進捗状況を評価した。
- ② 「項目別評価」は、法人の平成24年度業務実績報告書に基づき、7つの大項目ごとに法人の意見を聴取しながら評価した。

2 全体評価

平成24年度業務実績報告書によると、年度計画の達成度は9割以上となっており、中期計画の着実な進捗が図られたものと評価できる。特に、カリキュラムの見直しや助成金付海外語学研修制度の新設、まちなか教育活動センター構想といった教育の質の向上に資する新たな取り組みは、今後の成果が大変期待される場所である。

また、平成24年度においては、入学志願者数及び就職率が改善されたとのことであり、このことは、過去2カ年の公立大学法人としての取り組みの成果が表れたものと評価できる。

昨今の大学を取り巻く環境としては、いわゆる大学全入時代を迎え、各大学には、教育内容の充実や社会的評価の獲得の面において競争的な取り組みが求められているものと認識している。高崎経済大学においても、強みや特色を明確に発信し、学生の能力を最大限に伸ばす取り組みを積極的に進めていただきたい。

大学の強みや特色は、教育研究活動を支える教員の努力に拠るところが大きいと考えられるが、高崎経済大学には、創造的な研究活動や社会的活動に取り組む教員がおり、大学の魅力やブランドの維持、向上に大きく貢献しているものと評価できる。こうした教員の創造的な活動を法人が積極的に評価し、これが他の教員にも波及していくような、教員個人の努力を促すインセンティブ制度を期待したい。

また、活発な学生の活動は、魅力的な大学として社会から評価される一つの要素であると考えている。高崎経済大学の学生は、ゼミナール活動や地域での公益的な活動をはじめとする多方面で活躍し、実績を挙げているものと認識しているところである。こうした活動を学生が互いに見えやすくすることで、学生同士が切磋琢磨し、さらに活動が活性化され、学生自らが意欲と能力を伸ばさせていけるような環境づくりにも期待したい。

結びに、公立大学法人へ移行して2年が経過し、順調な法人運営がなされているものと評価できるが、現状に甘んじることなく、次期中期目標・中期計画への展望も見据えつつ、高まり続ける社会の要請に対応する高崎経済大学のあり方について検討されることを期待して、全体評価とする。

3 項目別評価

I 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

おおむね達成されているものと評価できる。

以下の点については、昨年度の本委員会の評価を踏まえて進捗が図られたものとして評価するとともに、一層の取り組みを期待するものである。

- ・平成24年度入学試験において志願者数が減少した原因や課題を検討するとともに、広報や入試対策の一環として、事務局組織の一体化などの改革に着手したこと
- ・留学生の実態に鑑みて、中国語のホームページを作成すること
- ・両学部において、カリキュラムポリシーに沿った新しいカリキュラムの策定、充実が進められていること

学生の育成については、初年次教育の充実に取り組んでいるところであるが、国の内外で活躍できる人材の育成を重視した、学生の論理的思考力・表現力及びコミュニケーション能力の向上を図るための教育並びに英語教育の充実を期待する。また、国際的に活躍できる人材育成の充実を図るための計画については、TOEIC スコアアップ講座の実施による成果として、学生のスコア評価を基準とした数値目標の検討を提案する。さらに、まちなか教育活動センターを活用した学生のキャリア支援、演習等の実践的な教育が行われることを期待する。

教育の内容については、助成金付海外語学研修制度は、自ら国際的視野を広げようとする学生を支援する取り組みとして今後の成果が期待される所であり、一人でも多くの学生が利用できるよう、制度の充実に努められたい。

教育の改善については、教育研究等の質の向上には教員個々の質の向上が不可欠であるとの認識のもと、知の交流拠点を担う国際的な視野を備えた教員の育成、確保にも努められたい。また、専任教員の確保に関しては、中長期的な視点に立って、大学の経営理念や教育方針を実現する上で必要な人材を確保するよう期待したい。

II 学生支援に関する目標を達成するためにとるべき措置

おおむね達成されているものと評価できる。

学習支援については、経済学部において履修指導に関するガイダンスを全学年に拡充したり、学習相談の機会を充実したりするなどの工夫を行っており、いずれも評価できる点である。引き続き、学生が意欲と目標を持って学習活動に取り組むことができるよう、教職員による支援体制の充実を図られたい。また、就学不適合者、成績不良者及び留年者への対策についても、継続的に検討、

実施していただきたい。

Ⅲ 地域・社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置

おおむね達成されているものと評価できる。

地域に信頼される大学として、高崎経済大学の強みや特色を積極的に発信するとともに、地域のニーズの把握に努め、地域社会の発展や生涯学習の支援などの地域貢献を積極的に進めていただきたい。

また、まちなか教育活動センターは、公立大学の存在意義である地域貢献を具現化する特徴的な取組であると評価でき、市民と連携した地域の課題解決や活性化に向けた具体的な活動が展開されることを期待する。

Ⅳ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

おおむね達成されているものと評価できる。

開かれた運営については、公立大学法人としての責務を踏まえ、市民に開かれた透明性の高い法人運営を行うべく、外部の意見の聴取並びに反映に努めていただきたい。

事務等の効率化・合理化については、事務局組織のスリム化、事務処理の効率化等に取り組んでおり評価できる。引き続き、効率的な法人運営に全学を挙げて取り組んでいただきたい。

Ⅴ 財務運営の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

おおむね達成されているものと評価できる。

外部資金の獲得については、財務運営の改善のみならず、大学の研究力の向上にも資するものであると考えられるため、教職員の意識啓発に取り組んでいただきたい。

経費の効率化については、教職員のコスト意識を高め、外部委託の積極的な推進などにより管理的経費の節減に努めていただきたい。

Ⅵ 自己点検及び自己評価並びに情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置

おおむね達成されているものと評価できる。

引き続き、自己点検及び自己評価の結果並びに監査結果を適切に業務運営の改善に反映できるよう、PDCAサイクルを意識した法人運営に努めていただきたい。

VII その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置

おおむね達成されているものと評価できる。

今後も、学生、教職員が安全で快適な環境の中で教育研究活動や業務に専念できるよう、学生、教職員の声を反映した業務運営に努めていただきたい。